

J8サミット

2008千歳支笏湖を振り返る

徳 永 隆

千歳市企画部主幹

ジュニアエイトサミット担当

一、一本のメール

J8サミットが閉幕したあと、主催者のユニセフ（国連児童基金・日本ユニセフ協会）から伝言があった。「千歳でのJ8は夢のような出来事」とイタリアの参加者からメールが届いたというのだ。それは受入れに関わった人々が同様に抱く感覚であり、褒め言葉と受け取れる。子供たちを見守り続けた十日間は、私たちにとても強く心に残る日々だったからである。

参加した子供たちは、各国の代表として地球環境問題をはじめとする大きな課題に向き合い、議論を戦わした。異なる意見を一つにしようとする努力の結果が「千歳宣言」であり、宣言を具体化し、実現しようとする意気込みが宣言を補完する「アクションプラン（実施計画）」としてまとめられている。同時に寝食をともにした彼らの十日間は、仲間意識を強いものにした。しかも今は祖国に戻った仲間たちが世界中にいるという実感は将来にわたって彼らの財産となり、普段の生活にも彩を添えるのである。「あのときの友は何をしているだろう？」と静かに思いめぐらす瞬間は、誰にとっても思い出を大切にできる心休まる瞬間である。

そして、初夏の緑に包まれた支笏湖の自然、地域の人々との交流、地域文化や日本文化に触れたこと、千歳市民が深く関わったJ8サミットの舞台一

つ一つも含めて、千歳の思い出は、名残惜しいほどに足早に過ぎ去った「夢のような出来事」だったのである。

二、市民参加のJ8サミット

昨年の十月十九日、J8サミットが支笏湖周辺地域を含む千歳市で開催されるのが外務省から発表された。

北海道洞爺湖サミットに集まる世界の首脳陣に宣言文を提出することがJ8サミットの目的であることから、洞爺湖に車で向かえる距離にあり、一方で警戒体制が強化される見込みの洞爺湖に接近し過ぎないことが、開催場所の条件の一つとなっていた。

そのような条件のもと、千歳市では昨年八月、外務省に企画提案書を提出し、受入れ体制や交流プログラムの内容を明らかにして誘致に名乗りをあげた。開催決定の大きな要因は、支笏湖の静かな佇まいが、世界の青少年が集い、環境問題をはじめとする世界の諸課題を議論する場にふさわしい



写真-1 開会式（7月2日支笏湖湖畔広場）

との評価を受けたものである。北海道洞爺湖サミットと連動して「ツインレイク（二つの湖）・サミット」と呼称し、両サミットの相乗効果をアピールしたことも要因と考えられる。

開催決定を受け、八カ月余りしかない準備期間の中、昨年十二月には産業界や教育関係をはじめ様々な団体や個人ボランティアなどにより市民実行委員会が設立され、最終的には二七団体、二七個人が参画する大きな組織となった。

市民実行委員会の役割は、外務省とユニセフ（国連児童基金）が主催する会議をはじめ、公式に催される開会式などの行事をサポート（会議場や宿泊場所、公式行事の設備や食事の手配など）することのほか、J8参加者たちをもてなすため、地域ならではの歓迎・交流事業を主催することにあった。

また、会議の安全・安心の確保や千歳市独自の広報宣伝活動も自主的に進めることが開催地としての使命となった。開催期間は十日間。その各日に事業が見込まれることから、準備や開催期間中に対応する業務量は膨大になることが予想され、多くの市民の参加により具体的に企画立案し、実際に活動する実行委員会組織が必要だった。

三、市民実行委員会での出来事

市民実行委員会では、役員会、総会、部会（四部会）、プロジェクト会議（五プロジェクト）、そのほか細かな打合せなど、短い準備期間の中でたくさんの方の会議を開催した。多くの市民が一つのテーブルを介し会議をすることは、集合時間集まるだけでも大変な労力と気力が必要とされる。だが、できるだけ確実に伝達し、情報を共有するには膝を突き合わせて会議をするしかなかった。それでも情報が伝わらないことも多く、メンバーの情熱に頭が下がる思いでいっぱいだった。

あるとき、もう一度会議を開催しなくてはならなくなった場面で、一人の委員が言った。「開催まで時間がない中で、とにかくやるしかないじゃない。何年も続くようであれば身体が持たないけど…」

と。短い期間だから集中してやる気を出すことができる。

短い準備期間は、かえってそれぞれのモチベーションを高め、目的意識を統一するためメリットにもなっていたような気がする。

各委員は色々な想いで参加していた。年齢の節目を迎えて何か想い出を作りたい、仕事はリタイヤしたが千歳にもう少し住むにあたって何か発見したい、英語力を活かしてみたい、仲間を作りたいなど、参加の動機や物事の考え方も様々だった。当然、話がまとまらないことも多かったが、限られた時間でそれぞれに妥協しながら合意点を探し、事業実施に結びつける意気込みで会議に臨んだ。

そのような会議の中で、物事が一瞬で決まった出来事があった。七月四日の夕刻に予定されているJ8参加者のための歓迎レセプション『Chitose Night（千歳ナイト）』で、市内の子供たちとの交流を中心に、地域文化や日本文化を紹介するためにもう一つ何かを取り入れたいと議論しているときである。既に、茶道、武道、大正琴は決まっていた。民謡にしようか、日本



写真-2 Chitose Night (7月4日ホテル日航千歳)

舞踊はどうだろう、お花や着物を見てもらうのもいいかも、市内の子供たちに出演を頼むとすれば現実的に可能だろうかなど、話し合いは結論がでない。そのときある委員が一言「盆踊りをすればいいじゃないか」と大きな声で発言。煮え切らない議論に思い切って発した言葉のように感じた。

『Chitose Night』では、ほとんどの出席者が浴衣を着ることにしていた。しかも盆踊りは、民謡も踊りも盛り込むことができる。全員がすっきりと納得した瞬間だった。

四. J8参加者たちの横顔

七月四日、『Chitose Night』当日のフィナーレは、市内の子供たちが唄う「北海盆唄」に合わせて、J8参加者ほか出席者のほとんど全員が大きな輪になって踊る盆踊りで締めくくられた。踊りが終わったとき、会場は大きな拍手に包まれ、笑顔で満たされた。

J8参加者たちは、重要な会議をこなし、寝の間も惜しんで勉強を続けているにもかかわらず、滞在を積極的に楽しもうとしている様子だった。特に、「お茶」や「剣道」といった日本文化の吸収にも積極的で、日本人が何気なく感じている静と動の心持や礼儀といった習慣を肌で感じ体験しようという意気込みが感じられた。だから盆踊りも踊ってくれたのだ。

市民実行委員会でも色々な企画を検討する段階で気がかりだったのが、J8参加者のスケジュールが過密なことだった。自由時間はほとんどなかった。日本情緒あふれるおもてなしは良いとしても、日本人的でお人よしのサービスマン過剰は、会議の成功を一番に考えた場合、慎まなくてはならなかった。それは色々な文化を味わってもらいたいという私たち自身の気持ちとの戦いでもあった。

結局、J8参加者に限らず海外の人たちは日本を楽しもうとする気持ちが

強いこと、もし迷惑であれば彼らは自分で判断するということを、彼らへの信頼として持ちながら受入れをすることが大切であることを学んだ。

北海道洞爺湖サミットの首脳陣への提出を翌日に控え、七月六日夕刻に「千歳宣言」を完成させた彼らは、その夜、安堵感からか宿泊場所の駐車場で慎ましく手持ち花火をした。日本代表の子供たちが英語で花火の持ち方や火の付け方を教える姿はほほえましく、「お疲れ様だったね」と言いたい気分だった。

小さな花火大会は、その後、日本の高校生と変わらないほどはしゃいだものになり、数少ない彼らだけの思い出になった。

五. 終わりに

J8サミットは無事に終了した。期間中には延べで五〇〇人以上の人々が実際に活動した。

さらにJ8サミットをきっかけに、四千人を超える規模で小学生が参加する「ちとせつ子未来フォーラム」が開催されたほか、J8参加者を歓迎する独



写真-3 千歳宣言・記者発表 (7月6日市民文化センター)

自の活動が様々な団体や企業で実施され、また、協賛という形で多くの賛同もいただいた。

町内会や各通り会でも花植えや清掃活動、防犯パトロールを実施するなど、国際会議の受入れとしては、これまでにない規模で多くの市民が関わりを持った。それでもPR不足は指摘された。全てが上手くいったわけではない。大切なのは、それぞれに得意分野があり信頼し合って取り組むこと。そういう仲間を少しずつでも増やしていくことがまちづくりにもつながると感じている。

そして、J8サミットが残したものとして、国際会議⇨国際交流、青少年の会議⇨教育の充実、環境サミット⇨環境問題への対応といったキーワードのとおり、それぞれの取組みを継続していくことが重要になっている。市民実行委員会の事務局を担当した一人として、そういったことに今後も関わっていくのだと感じている。

J8サミット2008千歳支笏湖(PRR用呼称「ツインレイク・サミット」)

●J8サミットとは

G8(主要国首脳会議：北海道洞爺湖サミット)と並行して開催される世界の青少年による国際会議。G8国と世界七地域の非G8国から中二〜高三の若者の代表が参加し、G8と同様の議題を討議し、共同宣言(千歳宣言)にまとめ、G8首脳陣と全世界に向け発表。二〇〇五年から開催され、今回で四回目(二〇〇五年イギリス、二〇〇六年ロシア、二〇〇七年ドイツ)。

●議 題

- ①気候変動と地球温暖化 (Climate Change and Global Warming)
- ②貧困と開発 (Poverty and Development)

③国際保健 (Global Health)

●主 催

・日本(外務省)、ユニセフ(国連児童基金)

●開催場所・期間

- ・支笏湖周辺地域を含む千歳市
- ・二〇〇八年七月一日(火)〜十日(木)

●参加国 一五カ国

- ・G8国 八カ国(カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、ロシア、英国、米国)
- ・非G8国 七カ国(ネパール、モンゴル、キルギス、イラク、南アフリカ、コートジボワール、バルバドス)

●参加者 三九名

- ・G8国 三二名(各国代表四名)
 - ・非G8国 七名(各国代表一名)
- (その他随行一九名、外務省・ユニセフ関係者七六名が来千)

J 8 サミット期間中スケジュール

公式プログラムの結果	市民実行委員会による事業
6月30日(月) 参加者一部来千(宿泊施設)	宿泊施設でのサポート(荷物や会議の準備)
7月 1日(火) 参加者全員来千(宿泊施設)	会議サポート(会場準備、設備準備・文化センター) ヘルプデスク(各日:看護師、心理療法士、書道等)
2日(水) 開会式・レセプション(支笏湖) フィールドトリップ(支笏湖)	支援(進行、食事、会場配置、出演者調整) 支援(ビジターセンター調整、視察コース設定)
3日(木) 会議(議題①)(文化センター) カルチャール・イブニング(宿泊施設)	コーヒープレーク支援(協賛の飲料・お菓子提供) ※J 8の概要と市内の環境配慮について展示 (参加者同士の交流のため特に支援なし)
4日(金) 会議(議題②)(文化センター) Chitose Night(宿泊施設)	コーヒープレーク支援(協賛の飲料・お菓子提供) 浴衣着用でChitose Night 実施・文化交流
5日(土) 会議(議題③)(文化センター) 支笏湖湖水まつり(支笏湖)	コーヒープレーク支援(協賛の飲料・お菓子提供) ステージ紹介、コンサート参加、花火見学
6日(日) 会議(千歳宣言)(文化センター)	コーヒープレーク支援(協賛の飲料・お菓子提供)
G 8) 7日(月) 会議(文化センター) (アクションプラン作成) 千歳宣言発表記者会見 千歳宣言首脳陣に提出(洞爺湖)	コーヒープレーク支援(協賛の飲料・お菓子提供)
G 8) 8日(火) 環境と未来を考える集い(札幌市) ミュージカル鑑賞(恵庭市)	千歳市からは28名の中高生が参加 J 8 サミット2008千歳支笏湖記念講話(文化センター)
G 8) 9日(水) G 8 夫人との交流(洞爺湖) 白老ポロトコタン見学(白老町) 風倒木の記念植樹(苫小牧市) 閉会式・レセプション(支笏湖)	支援(進行・会場配置) 宿泊支援(ヘルプデスク、シャワー設備設置)
10日(木) 参加者帰国	見送り実施(休暇村支笏湖・新千歳空港)